

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

【東日本大震災の長周期地震動体験からの証言】

●揺れの長さに関する証言

（揺れの継続時間の長さ）

上層階、低層階とも、「いつもは直ぐ収まるのに、いつまで経っても止まらない。とにかく、長かった。」「いつ終わるとも知れなかった」などの証言が多い。

●揺れの状態に関する証言

（上層階での揺れの周期の長さ）

「船に乗っているような感じ」「最初円をかくようになって、次第に大きく回る感じ」「ぐらぐら、緩い揺れが長く続いた」などの証言が多い。

低層階では、「床に手をついていないと転がる感じ」「早い横揺れ」といった、揺れの周期が短いと思われる証言がある一方で、「ゆらゆらした揺れ」「船に乗っている感じ」など、周期の長さを示す証言もある。

●揺れに対する生理的、心理的な状態に関する証言

（船酔いのごとく体調や気分を害する）

「船酔いのような状態になり、気分が悪くなった」「目が回って座り込んだ」という証言がある。一方で、「特に気にならなかった」「台風などでしばしば揺れるが、同じように、気分が悪くはならなかった」、また、「気分が悪くなった人がいて介抱したが、どうも揺れが怖かったようだ」といった証言もあった。

（大きな恐怖を覚える）

「恐くて座り込んだ」「とても恐かった」「女性の悲鳴が聞こえた」「死ぬほど怖かった」「この世の終わりのかと思った」「もうだめかと思った」といった証言がある。一方で、「特に怖さは感じなかった」「少し驚いたが、冷静に対応できた」といった証言もある。

●何が怖さをもたらしたかに関する証言

（経験の無い揺れと視覚、聴覚によるまわりの様子）

上層階オフィスの方のほとんどの方が「過去に経験の無い揺れだったから」と証言された。加えて、「窓から外を見ると隣のビルがぶつかりそうになるくらい揺れていて怖かった」「スライド式書架が左右に大きく移動し、ぶつかり合う音が大きく響いていたことが怖かった」といった証言がある。

（事態悪化を想像）

「何かきしむような、ギギーギギーという音が聞こえ、ビルが壊れるのではないかと思い怖かった」「非常階段に出たら壁にひびが入っていて、ビルが壊れるのではないかと思い怖かった」「直ぐには外に出られないということに気付いて、怖かった」などの証言があった。

気象庁「東北地方太平洋沖地震時における長周期地震動による揺れの実態調査について」参考

最後に、私たちにとって長周期地震動は、自由に動くことを制限させてしまうほどの揺れになることを、しっかり記憶しておきましょう。（次号へ続く）

内閣府中央防災会議 2011年12月「東海・東南海・南海の巨大地震を暫定的にM9に高める」との発表内容に基づき、「想定」という許される枠の中での検証内容を、皆様にお伝えしていきたいと思えます。あくまでも加古川グリーンシティにおける想定であり、全国を一律に考えたものではありません。

想定日時 2012年12月13日（木）13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

シリーズ 「災害への想定」 Story3


マンションではどのようなことが起こるのだろうか。今回も検証してみよう。

強烈な地震による揺れはおさまったが、長周期のゆっくりとした揺れがマンション全体を揺らしている。低層階の住民はあまり長周期の揺れを感じていないらしく、戸外に出て話をする声が聞こえてくる。

しかし、上層階では船が波で揺れるような感じが続く。船酔いに似た感じで、吐き気を感じたり、目眩の様にふらつく状況で立っていることもできず、しゃがみ込んだままの人たちが多い。また、長周期の揺れにより、お風呂の水が揺れに合わせて大きくなり（スロッシング現象）、浴槽の水がこぼれ浴室から外へと流れ出す。止まらないシーソーに乗っている様で足元に力が入らなくなる。お年寄りのなかには、長周期の揺れで転倒する人が多くなる。最初の揺れでは落ちなかった金魚水槽が床に落下し、辺りは水浸しになる。キャスター付家具は動き回る。危険を感じて食卓の下に潜り込んでいたが、食卓と一緒に自分も床を滑り出す。食器棚は扉が開いたり閉じたりする度に食器が飛び出す。タンスはつっぱりポールをしていたので倒れはしないが、つっぱりポールが天井材のボードにめり込んだ様になり、ボードを押し上げる「バキバキ」という大きな音を立てはじめ、天井材が割れ飛散する。吊り下げ型の照明器具が大きく揺れて天井にぶつかり、蛍光灯の割れガラスが飛び散る。転倒防止のチェーンを取り付けたタンスの引き出しが少しずつせり出し、落下する。

このような長周期地震動は10分程度続くと予想されている。

○姿勢を低くし、手すりなどにつかまって身体を保持しながら、揺れがおさまるまで待つ



・手すりがある場合は、手すりにつかまり、姿勢を低くする
・手すりがない場合は、四つん這いになる

安定がなくなり、座ったまま転倒する可能性があるため、完全には座らない

身の安全の回り方（廊下など）